

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473200875	事業の開始年月日	平成15年3月
		指定年月日	平成15年3月
法人名	社会福祉法人まごこと会		
事業所名	グループホーム神田園		
所在地	(〒 241-0012) 横浜市旭区西川島町68-11		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成27年11月	評価結果 市町村受理日	平成28年4月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

生活の場としての雰囲気を第Ⅰに考え、音楽や歌謡ショーを流し、心を癒し、穏やかな空間になるよう配慮しています。また、入居者が自信をもって、イキイキと生活して頂ける様、家事お手伝いやレクをして頂き、最大級の感謝の気持ちを伝え、生活の満足度を高めています（あさがお）

介護の質に加えて、衛生管理による風邪、食中毒の感染症予防、フロアの美化による利用者の安全強化を目指しています（ばら）

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成27年12月1日	評価機関 評価決定日	平成28年4月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

この事業所は、相鉄線鶴ヶ峰駅から徒歩10分ほどの住宅街の一角にある。法人はグループホーム設立のため、平成16年に社会福祉法人を設立した。広い敷地にゆったりと建てられた建物は日当たりが良く、裏に広大な果樹園が広がっている。1階玄関にある管理者室は常時オープンになっており、利用者家族や職員とのコミュニケーションを大切にしている。

【理念の追及】

地元で古くから馴染みのある理事長（管理者）が、屋号を事業所名にしたように、老いても普通の暮らしができる施設を作りたいという想いを理念に込めた。認知症になっても、その人の想いを肯定され、お願いされ、尊重されて生活できる場としての支援を目指し、実践している。管理者は心を込めて支援するために、利用者の人数を制限してまでもケアの質にこだわって経営している。

【職員との連携】

利用者を大切にするためには、職員も大切にするという管理者の思いから、職員の働きやすい職場を目指している。「地域部」と称し職員が運営推進会議を主催したり、「リクエストシート」で職員の意見を聞き流さない仕組みを作るなど、職員が活躍できる場を大胆に設けている。ラブレター作戦では職員が職員をほめる場を設け、月初には誰もが同僚からほめられた手紙が届く。運動部を設け、職場外でのストレス発散とコミュニケーションを心掛けている。すべてが「まごころこめて」の理念に通じている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム神田園
ユニット名	あさがお

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	グループホーム神田園
ユニット名	ばら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	天気が良い日にはベランダで日光浴をしながら近隣の方と挨拶をして交流をしている。	開設時に管理者が理想とするケアを「理念」として5つの項目に集約した。新人研修時に1日かけて研修をする。毎年目標を設定し、今年度は「伝え方、聞き方」に重点を置き実践している。理念や目標は事務所や玄関、各フロアに掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議やゴミだし、掃除などをして交流をしている	町内会に加入し、地域行事のどんと焼きや盆踊りに利用者と共に参加している。町内の防災訓練には職員が参加している。ホームが近隣のごみ集積場所になっていて、清掃も行っている。毎年中学校の福祉体験学習を受け入れている。年2回マンドリン演奏のボランティアの来訪がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	表の掲示板に介護相談の案内を出し随時受け付けている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催している。会議は会議室ではなくフロアで行い現場を直接見てご指導いただいている。	奇数月に町内会長、副会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族などの参加を得て開催している。職員2名を担当につけ、フロアの様子を見てもらいながら会議を行っている。参加者からの意見も多くいただき、職員は普段気づかないことに気づく事が出来る、有効な会議となっている。		

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を活用し今後充実に努めていく	区の窓口には代行申請の折に管理者が出席している。地域包括支援センターからは入居相談などがある。主任ケアマネジャー養成研修の際の現場研修を受諾している。保健所の感染症の研修などに参加している。	
---	---	--	----------------------	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やカンファレンスでスタッフに情報を共有し、センサーや見守りの対応で拘束をしないケアを実践している	研修は、管理者作成のマニュアルを使い、事例検討をしている。今年は言葉による拘束排除を徹底するために「伝え方、聞き方」に注意をくばり、「まずは肯定の気持ちで賛同し、同意を示し、その後に提案する。」ことを目標としている。また、玄関や各フロアの施錠はせず、出たい時に外出できる環境を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修で管理者が指導している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々によって理解度にバラつきあり、資料や研修の検討が必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事務長にゆだねるケース多く、説明を明確に行える職員がいない。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	請求書内で情報提供、面会時に意見交換を行っている	毎月の便りの他、利用者の情報を提供することで、家族が来所しやすい関係を築けるように努めている。家族の交流会やイベントに積極的に家族を招待している。「リクエストシート」を使用し、家族や利用者から聞いたことを忘れないように書きとめ、回答をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リクエストシート、全体カンファ、面談などを通じスタッフの意見、要望、提案を聞く機会を設けている	「リクエストシート」や「申し送りノート」を利用し、家族だけでなく職員も自分の提案や意見を書くことができる。管理者は常に職員とのコミュニケーションを大切に考え、意見や提案を真摯に受け止め解決している。利用者の席替えや柵の手すりの修繕などは、すぐに実行した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援制度においてより高度な介護がしたいと思う向上心にたいし支援している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者とのマンツーマンでの講義、利用者の関係作りから日常業務へと新人は段階的に研修を受け、職場に馴染む工夫をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	更なる充実を検討し実施していく		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族との面談で事情を把握、また初期の信頼関係作りに多大な時間を割いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にご家族と積極的にお話をしコミュニケーションをはかり、意見交換、信頼関係構築をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居ありきの姿勢ではなく、見学・体験入居などで、本サービスの利用が妥当なのか一緒に考えています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は生活を下支えする人、お世話をさせて頂いている人。入居者は人生の大先輩、利用者さまとの信頼関係を大事にしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にし、日常会話の中でも家族の話を取り入れ、家族との関係の維持に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出がスムーズになるよう支援しています。また面会に来られた際はその空間・時間を大事にしてゆっくりとお話しして頂ける様努めています。	家族や知人の来訪が増えるよう、来所時には日頃の情報提供を行い、居心地良く感じられる対応を心掛けている。地図に近隣店舗や散歩コースを記入し、事業所周辺に馴染んでもらう努力をしている。誕生日はその人の一番大切なイベントとしてとらえ、大切な場所や食事と一緒に行くことにしている。全員で懐かしい歌や遊びをすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、食事の準備やゲームなどで仲間意識を高めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去＝関係の終わりとは考えず必要があれば転院先への情報提供はもちろん相談に応じています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	口にされる要望はもちろん、表情やそぶりなどにも注意して気持ちを汲めるようにしている。また声掛けは「～していただけますか？」と強制的にならないようにしている	初回アセスメントは家族に生活歴などを聞いている。職員との関係性から聞ける情報を大切に、信頼関係の中で思いを聞き出している。食事中や就寝前のゆっくりした時間の中で聞くことが多い。直接聞けたときはリクエストノートで共有する。困難な場合でも表情や素振りや、日ごろの関係性から感じられる支援を目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプランファイルに各利用者の情報を収め、職員は適時それを閲覧してサービスの内容を再考している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ごとの記録にて些細な変化も見逃さないように注意している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意見を尊重しリクエストシートを作成し本人がよりよく暮らせる為に日々話し合いに努めている	事業所独自の計画書があり、本人や家族の希望に沿った計画が立てられている。計画の実行に際してはこまめに支援内容が変えられるよう「生活支援計画別紙」が作られ、モニタリングや評価を記録している。情報は管理者が一元的に管理し、医療情報と併せて計画を作成している。	介護計画書作成のプロセスがわかるカンファレンスの記録を整備されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを作成するにあたりスタッフと話し合い作成している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に入居者のニーズに対応し、適した支援ができるよう努力している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊かな自然環境、近隣の飲食店、ケアプラザ、図書館、プール、バスなどの地域資源を活用した生活を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療時にきさくに会話することができ医師との信頼関係づくりを支援している	全員が協力医の往診を受けている。週に1回、看護師の職員が健康チェックを行い記録している。専門医は原則家族対応である。協力医とは24時間連絡が取れる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士が分からない事をアドバイスを頂いたり、処置方法などをレクチャー頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーの提供のみならず、職員も同行し日常生活や性格、認知症状の注意点をお伝えしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族、医師、現場の希望を考慮し、事業所として出来る事と出来ない事を共有している	入所前に「重度化した場合の対応指針」を重要事項説明書の中で説明している。重度化した場合は、医師と家族と話し合っ方向性を決め、食事ができなくなった時は点滴等の医療行為は行わない方針で合意している。当事業所での看取り例はない。職員には方針を周知している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルの作成及び各自の知識取得を支援している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を実施している	1月は消防署立会いの下、夜間想定防火訓練を行った。10月は内部で避難訓練を行った。避難用のリュックサックを利用者分用意したり、利用者の逃げ遅れの確認にはプラスチックのチェーンをかけるなど工夫をしている。災害備蓄は外部倉庫に5日分の水や約1週間分の食料を用意しているほか、米100キロも回転備蓄としてとり置いている。近隣の協力は得られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である入居者ひとり一人に合った話し方や返答では肯定の言葉を選んで対応している	「肯定することが尊厳を守る事」と考え、人生の先輩として尊敬するよう徹底している。今年度の目標も「話し方、聞き方」と設定し、職員は尊厳を保つために否定しない聞き方を学んでいる。利用者は好きな場所で思い思いの生活を営めるよう職員の支援を受けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思を表明しやすい疑問系の声掛けを徹底し、日々の信頼関係作りにも努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は定時に声掛けをする が、強制はせず、入浴も拒否された場合には時間をずらすなどの対応をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人で選べない方は何日も同じ洋服にならないよう職員が配慮している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各個人の能力に応じて調理補助、片づけをしていただく、食事の際は食事の集中を邪魔しないような音楽を選んでかけている	食事の準備は、業者から昼食は半加工品、夕食は材料をメニューや作り方と共に配達してもらっている。配膳や調理は利用者に手伝ってもらっている。職員は利用者と同じテーブルで、同じものを食べて会話を楽しみながら見守っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は数値化し飲水量も50cc単位で記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいや口腔ケアへの声掛け支援をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンや習慣を把握して誘導している。また羞恥心や不快感を考慮して様々な種類のリハパンやパットを組み合わせ支援している	各ユニットに3つトイレがあり、うち一つは洗面所3つと個室トイレが2つが1か所に並んでいる。職員は定期的に誘導を行い、失敗のないよう支援している。管理者は初動を見逃さず、落ち着いた様子やトイレに行きたいタイミングを見計らって声掛けするよう指導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックし日数に応じて運動、水分量を変え、薬物だけに依存しない対応をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ひとり一人の希望を優先し強制せずに入浴できるよう支援している。CDを聴きながら楽しんで入浴される方もいる	脱衣所にプラスチックの小籠を用意し、それぞれのシャンプーや石鹸、タオルなどを用意し、入浴を楽しんでもらう工夫をしている。湯船に入る時間がほっとする時間となるよう、音楽を聴いたり話をしたりその人が楽しんでもらえる方法で入浴してもらっている。近隣からもらったゆずでの入浴は利用者の楽しみになっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員の都合ではなく利用者の好きな時間に休んで頂ける様にしている。起床も朝食準備の音やにおいて自然に起きられるよう工夫したりもしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用などを知る事が出来るようファイルにまとめて管理している。また服薬管理表により誤薬のないよう確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のレベルに合わせ検討し充実を図る努力をしている。散歩やカラオケのほか、計算や漢字書きなどを目標を作って生活のなかに楽しみが増えるようにしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には日光浴をしていただけるよう積極的に声掛けをしている	壁にマップを張り、5つの散歩コースを設定している。新幹線を見に行ったり、本屋に買い物に行ったり、畑を一周するコースなどがある。ベランダに出て日光浴を行う利用者もいて、外気にあたる時間を持つことを心掛けている。誕生日には一人ひとりが生涯で一番良かったと思われる日になるような外出支援をしている。職員2名が付き添い、みなとみらいの夜景と船上レストランに行った利用者がある。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持参された方は事務所の金庫でお預かりし、必要に応じて使用できことを伝えていきます		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	使用に関し不自由にならないようさりげなく支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	業務日誌に必要な管理業務の実施状況も記入できる。また貼り絵や掲示物などで季節感を出している	広めの居間は台所から一望でき、利用者の動向を見守りながら作業ができるようになっている。コーナーやソファを利用し、利用者の視線が合わない様置き方などを工夫し、ゆったりとできる空間を作っている。掃除箇所も日々業務日誌に記入し、一目で衛生状態がわかるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビやソファを複数個所に配置したり、ベランダや和室、食席を点在させることにより気の合った利用者同士でくつろげる生活環境を作っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や調度品をお持ち込み頂け、居心地の良い空間になるよう支援している	各居室は入り口が奥まっているため、プライバシーが守られ、プラスチックチェーンを掛けることで鍵代わりになっている。広い居室には使い慣れたベッドやタンス、机や仏壇、三面鏡など、自宅に居た時のままに過ごせるようにレイアウトなどを工夫している。重度化するに従って、自宅に家具など荷物を持って帰ってもらい、シンプルに暮らせる工夫もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食席のレイアウトの工夫や居場所を複数設置することで共同生活であってもひとり一人の能力を活かしたお手伝いや居心地の良い生活を演出しています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム神田園

作成日 平成28年4月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	年2回の訓練のみで全てのスタッフに参加できていない。 又、実効性に乏しい	バリエーションを増やし実効性のある訓練を行う	炊事出し訓練、連絡体制、搬出、夜間、消火訓練を年に1度のみ行う	1年間
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。